平成29年度第1回印西市教育振興基本計画策定委員会　会議録

1．日　　時　　平成29年6月16日（金）　午後2時～午後3時30分まで

2．場　　所　　印西市役所　41会議室

3．出席委員　　福留強委員（委員長）、青木和浩委員（副委員長）、岡敬一郎委員、
池亀節雄委員、桜井繁光委員、板倉三郎委員、西田裕子委員、
五十嵐靖宏委員、青柳豊子委員

4．欠席委員　　篠原英光委員、

5．事 務 局　　大木教育長　山﨑教育部長
教育総務課　髙石参事、吉林副主幹

6．傍 聴 者　　4名

7．議　　事　　(1) 印西市教育振興基本計画最終素案について
(2) その他

8．議 事 録　　要点筆記

議事（1）

～事務局より（1）に関する資料を説明～

委　員：スポーツ審議会では、子どもたちにも分かりやすい基本理念にしたいという意見が出ていた。前回から修正された今回の基本理念は覚えやすく、良いという結論だった。

事務局：「循環型生涯学習」「総合型教育」なども具体的な用語解説を挿入し、分かりやすいものにしていく。

委員長：計画をはじめて見る人には分かりにくいと思うので、ぜひ用語解説をつけてほしい。また、24頁の基本方針2の文章と、「生涯学習によるまちづくり」のイメージ図がマッチしていないという意見が出ていた。

事務局：イメージ図の中に「関連施設のネットワーク強化」とあり、これが上の文章にはないというご指摘をいただいた。そのため、「生涯学習によるまちづくり」のイメージ図はそのままにして、上にある基本方針2の文章を修正して整合性をつける予定である。

委員長：余談だが、生涯学習を活性化するためには施設を整えて生涯学習ができる環境づくりや、指導者の招へいを行うことなどがまちづくりの前提であり、そこから「まちづくり」というキーワードが出てきた。

今から30年ほど前から、生涯学習でまちづくりを行うという推進事業がいろいろな自治体で行われていたが、言葉だけがひとり歩きし、実体が伴っていなかった。これを踏まえると、24頁の「生涯学習によるまちづくり」のイメージ図は、全体の関係性が表現されていて分かりやすく良いと思う。

委　員：89頁「リーディング施策アクションプラン案」の「案」を削除してほしいとお願いしたが、削除されていない。

89頁の平成31年度で『大学等と連携して、「知」「徳」「体」の連携方策を検討し、「総合型プログラム」を作成する体制を検討します。』とあるが、前回は「検討」ではなく「構築」となっていた。変更理由を聞かせてほしい。

平成31年度と平成33年度には「総合型プログラム」が書かれているが、平成32年度にはない。これはなぜかを聞きたい。

事務局：「案」は削除する。リーディング施策は現行事業を拡大していく考えを持っているが、具体的な方向性がまだ描ききれていない。したがって、若干、トーンダウンになってしまうが、「構築」ではなく「検討」に変更した。

また、「総合型プログラム」は、将来の方向性が明確になっていないことに加えて、関係する所管と調整する必要もあり、プロジェクトの位置づけが難しい。そのため、このような表現になった。

委　員：31頁と89頁に『大学等と連携して、「知」「徳」「体」の連携方策を検討し、「総合型プログラム」を作成する体制を検討します。』と、同じことが書いてある。これを工程表のような分かりやすい表現にできないか。項目を左に書いて、平成31度から平成33年度を縦に書くと31頁とダブることがなく見やすくなる。

事務局：現時点で事業をどうしていくかの具体策は出ていないが、リーディング施策として、進められるものは進めていきたいと考えている。計画の最後にリーディング施策の主な取り組みを年度ごとに記載しているが、内部の共通認識と位置づけている。

委員長：役所内で年度の議論をした結果でこういう表記になったのか。

事務局：市に「総合型プログラム」として位置付けられているものはなく、現行の事業を拡大していくという考え方だ。89頁については、平成31年度は現行の事業、平成32年度は「オリンピック・パラリンピック東京大会」に関連したこと、平成33年度は『子どもの「総合型プログラム」を、将来的には関係各課と連携をとりながら、乳幼児の時期から高齢者までのプログラムとして作成し、市民の健やかな体と心を育む学びを推進することを検討します。』と記載しているが、具体的に何をやるのかを示せない現状

だということをご理解いただきたい。

委員長：実際の事業計画は、その時点の予算や人員に基づいて年度ごとに作成するため、この計画の中で具体的なことは記載しにくい。

施設は重要な役割をするが、図書館や公民館を造る計画については、市の総合計画に組み込まれているため、教育振興基本計画には記載されない。教育振興基本計画は教育のソフトな部分が挙げられているという認識で良いと思う。また、重なっている記述は「再掲」と記載する方法があり、両方の頁で記載した方が都合の良いこともある。

委　員：計画の目玉であるリーディング施策が 3 つから 2 つになり、曖昧になったように感じる。

事務局：生涯学習によるまちづくりをテーマに、学校教育、スポーツ、文化芸術との連携を行っていくという考えだが、生涯学習の割合が高い印象を与えてしまっている。

委員長：以前のふるさと創成 1 億円事業は、自治体の 40%程度が生涯学習の内容だった。4 つの分野だが、学校教育、スポーツ、文化芸術を含め、すべてが生涯学習という認識を共有することが大事である。また、68 頁の目標指数に対する意見についてはどうか。

事務局：「現状よりも約 15%増やすこと」という目標設定をより具体的に記載した方が良いというご意見をいただいた。これは、市の総合計画を反映させる必要があり、この表現になっている。

委　員：86 頁に庁内体制の充実で「庁内の推進体制を強化するとともに、職員研修を充実します」とあるが、強化の意味を聞きたい。強化するためには専従者がいた方が良い。

事務局：教育部としては職員に関する要望も市に毎年出している。今後も強化をお願いし、職員の見識を高めるために研修を充実させていきたい。また、計画は財政計画に則って進めていくことが基本になる。

委　員：基本計画を進めるにはこれまで通りの予算なのか。

事務局：人口減少などで予算も軽減されていくと思うが、計画は決められた予算の範囲で行わざるを得ない。68 頁の目標指数である参加者数の増加は我々の努力次第になる。

委　員：これから人口が減っていく中で 15%増やすという目標は難しいと思う。スポーツ少年団は増えている地域と減っている地域があり、全体では人が減っている。

委員長：評価に関しては、誰が何を評価するのかで全然違ってくる。社会教育には評価がないと言われている。公民館に何人参加したかというのは単なる人数評価になってしまう。どういう力がついたかといった評価は一切ない。そのため、評価については苦慮している。せめて行政だけはしっかり行ってほしい。

学校教育は法律で決められたカリキュラムはあるが、社会教育は一切ない。最も評価が遅れている分野のため、将来は評価の枠組みが必要である。

また、79 頁の文化芸術の問題点についてはどうか。

事務局：文化芸術分野の事業が他の分野に比較して少ないという意見が出ていた。

委　員：文化芸術に所属している。学校教育は指導要領に基づいているが、文化芸術は各委員が専門としている分野があるため、個別にいろいろな事業の要望が出た。特に、若い人を育成する事業に力を入れたい、印西市らしさはどこにあるのかという意見もあった。印西市は都市化が進んでいるが、自然が豊かで、歴史遺産も恵まれている。それを活かしていくことが重要と考える。印西市の自然や歴史的遺産を第 2 章に記載してはどうか。

委　員：スポーツに所属している。印西市にある順天堂大学を活かしていないという意見があったが、予算的に今年は無理だという回答だった。印西市らしさは何かを考えていく必要がある。

事務局：印西市らしさを 22 頁の基本理念に入れたらどうか、というご意見でよろしいか。

委　員：第 2 章あたりに入れてほしい。

委員長：計画の実施は各所管が実施するが、計画の中に印西市らしさに触れておく必要があると思う。

3 年後にオリンピックがあるため、スポーツや福祉に力が入っているが、文化芸術は薄くなっている印象も確かにある。オリンピックに向かって外国人も増えるが、印西市は成田に近いという地域性もある。その点からも文化芸術は重要になる。

委　員：文化芸術を含めて 4 つの分野がコラボレーション事業やネットワークができるきっかけにもなる計画である。それを広げていくための出会いの場づくりやデータを発信していくことで、地域がさらに元気になると思う。

委　員：リーディング施策の背景は庁内に様々な施策があり、力をあわせれば良いことができるということだと思う。また、オリンピックは、向こう百年は日本で開催しないという視点から、2020 年に向かって順天堂大学でもいろいろと取り組んでいる。それが印西市によい効果をもたらすことは間違いがないと思う。これを足がかりにボランティア、文化芸術、福祉などにつなげていくと、2020 年が終わった後に自然とまちづくりが出来上がっていくと思う。

委員長：第 4 章の計画の推進で、今の委員の意見を反映させてほしい。

委　員：教育振興基本計画に 4 分野がすべて入っているのは、よくあることなのか。それとも

珍しいことなのか。

事務局：一般的には全体をひとつにまとめていくケースが多い。

委　員：計画にはスポーツや文化芸術はあまり大きく出てこない。生涯学習をメインにしてまちづくりを行うというのは、政策の上で印西市らしいと思う。

事務局：市の総合計画を踏まえた上で分野ごとの計画がある。また、福祉を含めて、学校教育と文化芸術の隙間をどうするかということが言われている。子どもを対象にした時に、子どもだけの計画を策定するという形も増えている。

委　員：87 頁の「点検・評価の実施」に「その結果について市議会に提出するとともに、市民に公表し説明責任を果たします。」とあるが、市民にはどの程度公表するのか。

事務局：87 頁に『地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条の規定に基づき、毎年実施する「教育に関する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価」』とあるが、教育委員会として毎年度実施している。その結果を市議会に提出したり、市民に公表したりしている。11 頁に『平成 28 年度（平成 27 年度事業対象）教育委員会の点検・評価』の結果を報告しているように、こういう形で結果報告していく。ホームページでは個別の評価状況を公表している。

委員長：点検・評価の実施はどの自治体も行っている。今までやっていなかったが、国として進めている。

事務局：37 頁の施策の体系で「主な取り組み」と「主な事業」があり、学校教育分野はかなりの部分を占めている。38 頁以降にその具体的な事業があり、「個性や能力を伸ばす教育の推進」として複数の事業が記載されているので、もう少し見やすくしていく。

委員長:計画では印西市らしさを出してほしい。生涯学習で一番大切なことは連携であり、これをキーワードとして意図的に使っていくと印西市らしさが出る。不足していることは、印西市らしさで補えると思う。

委　員：文化観光の歴史遺産を活かした取り組みとして、観光事業との連携が入っていることは良いと思う。

委員長：議論 1 はこれで終了する。

議事（2）

～事務局、委員ともに「特になし」

＜その他＞

◇これまでの検討委員会、策定委員会の内容を庁内で調整後、パブリックコメントを行う。パブリックコメント終了後、次回の検討委員会、策定委員会を予定している。日程については改めて連絡する。以上で本日の策定委員会をすべて終了する。

以上

平成２９年度第１回印西市教育振興基本計画策定委員会の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

平成　２９　年　　７　月　１４　日

印西市教育振興基本計画策定委員会

委　員　　板　倉　　三　郎